

地域みんなで 笑顔きらめく 健康づくり

～ やさしさ・つながる・おもいやり ～

日時: 令和6年9月28日(土) 10:00～11:10 場所: 八尾コミュニティセンター 参加者: 77 名

活動発表

守りたい！私たちの地域とみんなの笑顔！

富山市消防団 八尾方面団 女性消防団員

▶八尾方面団 女性消防団とは？

- ・旧八尾町と富山市が合併したことを機に平成 18 年3月 1 日に発足された。
- ・女性ならではの視点で地域の防災に重点を置いた活動を多岐にわたり行っている。

▶主な活動内容

- ①ひとり暮らし高齢者家庭の防火訪問
・春と秋にある火災予防週間に合わせて訪問。
・住宅用火災警報器、緊急連絡先があるか等を確認。
- ②幼児防火教室
・保育園やこども園で紙芝居や寸劇、消火体験を行っている。
- ③消防総合訓練
・15 分ほどの寸劇や各ブース(ハシゴ体験など)の協力を行っている。
・住民の防災意識を高めるとともに消防団活動への理解と関心を深める機会となっている。
- ④救命講習指導
・八尾方面団の女性消防団員は全員『応急手当普及員』という資格を持っている。
・学校や企業、地域からの依頼に応じ、消防署の救急隊と一緒に応急手当の普及に努めている。
- ⑤消防操法大会
・男性消防団員による消防用機械器具の取扱い及び操作の技術を競う大会の運営を補助。

訪問することで活動の励みや
住民との顔の見える関係づくりになっている。

幼い子どもたちの心へ
防火の種をまき育てている。

令和 5 年度
全国女性消防操法大会出場

- ・女性消防団員のみを対象とした大会で
富山県代表として参加した。
- ・達成感と士気の高揚を実感した。

▶活動を通して感じること・思うこと

住民と触れ合うことが自分たちの
モチベーションにつながっている

自分たちの活動が住民の防火・防災への
意識が高まるきっかけになってほしい

いざという時に地域で助け合えることで
被害を小さくできるのではないかな

自助や共助の大切さを知ってもらいたい

防災をきっかけにした人とのつながりが生まれている

▶今後について

- ・地域防災の一つの要として、地域に寄り添いながら活動を続けていきたい。
- ・地域の人にも女性消防団について知ってほしい。

助言及び講演

健幸づくりとソーシャルキャピタル

富山大学学術研究部疫学・健康政策学 助教 立瀬 剛志先生



健康の定義(WHO 創設者)

『単に病気にかかっていないだけでなく、身体的・精神的・社会的に well-being な(満足すべき)状態』
→身体機能の低下を受け入れ、前向きな健やかさについて理解を深める必要がある。

けんこう

健幸とは、すこやかで満ち足りていること

・前提には“楽しみ”がある。

(健幸要素の例) おいしく食べられる、自分で移動できる、趣味や生きがいがある、役割がある、
いつでも居場所がある、親密な相手がいる など

健幸の要素は

《人とのつながり》がポイントになる！

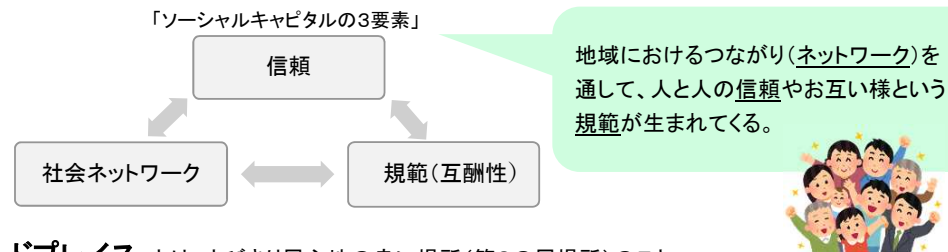
・人とのつながりは『社会関係資本』といい、幸福度の決定要因の主要因とされている。

・人は物質的所有に慣れやすいが、非物質的所有には慣れることはない。

つまり…人は所有している物などには飽きてしまうが、家族や友人など非物質的な《人とのつながり》は
飽きないため自分自身の幸福に寄与し続ける。

ソーシャル・キャピタルとは、地域などグループ全体の調和や協調性、結束力のこと

・定義: 人々の協調行動を活発にすることによって、社会の効率性を高めることができる社会組織の特徴。



サードプレイスとは、とびきり居心地の良い場所(第3の居場所)のこと

・人がサードプレイスに何度でも戻ってきたい基本的な動機は“楽しさ”である。

(サードスペースの例) コミュニティカフェ、シェアオフィス、子ども食堂を運営する場 など

居心地が良いと思えるサードプレイスを地域につくり、
支援を提供し合えるお互い様の関係をつくるのが大切

発表者への助言・講評

- ・活動によって地域の中にネットワークが生まれ、
ソーシャルキャピタルを築く一助になっている。
- ・女性消防団はまさにサードプレイスの一つであり、
こうした居場所は地域の健幸づくりにもつながる。

参加者の感想

- ・健幸でいられるよう楽しみをもって
生活を送りたいと思った。
- ・人とのつながりだけでなく、地域の
つながりも大切だと改めて感じた。